ZEN大学
ZEN University

瀬戸内
ローカルZINEエディター

～行政・企業と対話し、地域の物語を
ZINEで形にする実践プログラム～





2026.10.5 － 10.30

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

プログラム概要



岡山県瀬戸内市には、規模は小さくとも独自の魅力を持つ中小企業が数多く存在しますが、その価値が若者層に届いておらず、将来の選択肢から漏れてしまっているのが現状です。この「情報のミスマッチ」を解消し、**若者の視点で地域の「はたらきやすさ」や「まちの魅力」を再定義**することからプロジェクトが始まります。

まず、市役所や企業との対話を通じ、産業振興の現状を学びます。プロのライターにインタビュー手法を学び、**本質的な魅力を発見する洞察力**、それらを**第三者に届けるための編集・PRスキル**を実践的に習得します。

人気の刀剣博物館、ヨットやカヌー、農業体験など、まちの**観光資源を楽しむ体験**も随所に用意されています。地域を五感で味わいながら、行政と民間、両方の視点から「働く、暮らす」を見つめる経験は、**自身のキャリア観を広げる**大きな糧となります。

プログラムの集大成として、瀬戸内市で「働く、暮らす」魅力を凝縮した紹介冊子**「ZINE（ジン）」を制作**し、産業支援策の提案とともに市長や関係者へプレゼンテーションを行います。完成したZINEは市内の学校等へ配布され、地元の高校生や大学生が地元企業の価値を再発見するきっかけを作る**「地域と若者を繋ぐ架け橋」**としての役割を担います。

スケジュール

※募集時点での予定です。都合により変更になる場合があります。

ONLINE	9月3日（木）16:00-17:30 キックオフ・ミーティング	オンラインで交流しながら、現地で体験する地域アクティビティを決めよう！
WEEK 1	まちと企業を知る	市役所レクチャー、地元高校生ヒアリング プロのライターとインタビュー練習 企業の情報収集、訪問
WEEK 2	インタビュー、記事執筆	デザイナーと打合せ、記事構成決定 企業インタビュー、文字起こし、執筆
WEEK 3	産業支援策の考案	コラム記事の作成 産業支援策の考案、提案プレゼン作成
WEEK 4	最終プレゼン準備、提案	提案内容の改善 プレゼン資料のブラッシュアップ 市役所で産業支援策の提案

地域アクティビティ例

- 刀剣博物館
- 農業体験
  （稲刈り、みかん狩り）
- 前島散策、釣り
- ヨット体験
- シーカヤック、SUP



ZINE（ジン）とは？

個人や少人数のグループが
自由なテーマや形式で制作し、自主発行する小冊子

「Magazine（雑誌）」が語源ですが、プロの編集者や大きな出版社が作るものとは異なり、企画から取材、デザイン、編集まで自分たちの手で自由に行うのが特徴です。

プロから直接学ぶノウハウ

ライターやデザイナーに学びながら制作を進めます。記事づくりやデザインの経験がなくても、イチから安心してクリエイティブを学べます

地域での体験をカタチに

企業のインタビューページのほか、五感で楽しむ地域アクティビティの体験も、等身大のコラム記事として盛り込みます

完成したZINEが若者たちに届く！

制作したZINEは、参加学生はもちろん、地元高校生・大学生の手元へ。
若者たちが瀬戸内市で「働く」「暮らす」を想像する未来のきっかけに！



※制作イメージ

活動地域・連携先

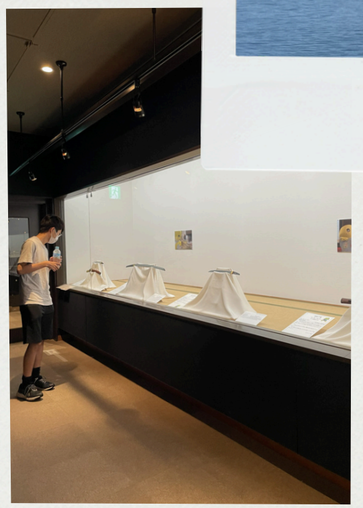
瀬戸内市
Setouchi City

瀬戸内市は、県都岡山市に隣接した**海と自然に恵まれたまち**です。
市内にはJR赤穂線が走り、**岡山市内からのアクセスも良好**です。

美しい海岸線や緑豊かな風景が広がり、西日本最大級のヨットハーバーには
多くの人が訪れます。農業や漁業、牡蠣の養殖など地域産業も盛んで、
自然と人々の暮らしが身近に感じられる地域です。

一方で、進学や就職を機に**若者が市外へ流出**することが課題となっています。
地域の魅力や仕事をどのように発信し、若い世代が**「住み続けたい」「戻ってきたい」**
と思えるまちをつくるかが、瀬戸内市にとって重要なテーマです。







運営・サポート

若者と大人がつながることが地域の未来をひらく

NPO法人だっぴ

若者が大人たちとつながりながら、
なりたい自分やつくりたい未来に向けて 挑戦していく。
NPO法人だっぴは地域の教育を耕し、
若者の未来と地域の可能性を創造します。